

前回検討会及び 相談役基調講演の振り返り

令和3年（2021年）11月15日
第2回 川口駅周辺まちづくりビジョン検討会

●全体

- 民間でできる対応と行政がすべき対応を仕分け、民間に対応させるべき事項については民間に働きかけていくべき。
- 何を残し、何を更新するかの方向性の整理が必要。
- 6つの視点（交通～都市景観）は相互に関連するものとして再整理・検討が必要。ポイントは回遊性、特に川口駅東口・西口の繋がり。
- 目的をもった来街者の利用シーンを想定しながらの検討が重要。無目的来街者の惹きつけが重要。
- 「住民が学び、その学びに生活の実感を混ぜて計画のアイデアを出してもらう」プロセスが重要。
- DX自体が目的とならないよう目的を明確にすることが必要。
- 東口と西口の両方が十分に活かされる役割分担・連携が必要。

●回遊性

- まちづくりは進み、オープンスペースも整備されているが、面的なつながり・回遊性に課題。まちづくりを発信できるインフォメーション機能の充実が必要。
- まちの回遊性改善のため、歩行者空間の快適性・安全性向上が必要。
- 西口は歩きやすいが、東口は楽しいが歩きにくい。
- 人の流れをうまく取り込むことは、賑わい創出のために重要。

●都市機能

- 新旧住民が交流する機会が少ない。アートを通じた交流には取り組んでいる。コミュニティ参画に対する情報提供の場が少ない。
- 旧そごうは再開発等含めて検討すべき。
- 旧そごう活用について、商工会青年部からフリースペースとしての一時的開放の意見がある。
- 旧そごう閉店により、仕事帰りの買い物が不便になった。
- 惣菜等を買える商業機能の増強等の長期的な視点での検討。
- 軽食を楽しめる等ちょっとしたゆっくりできる場所が見つけにくい。

●交通（鉄道）

- ・ 駅を通過するものでなく、つながるものとして展開している駅もある（Beyond Stations構想）。
- ・ 川口駅にSTATION BOOTH（個室のシェアオフィス）を設置しており、今後需要増があれば対応が必要。
- ・ 1つの駅だけではなく、線区としてバランスを考える必要がある。
- ・ 多くの市民が利用する川口駅について、中距離電車の停車等の輸送力増強の検討は引き続き必要。
- ・ 有事に備えるため、川口駅-川口元郷駅間のアクセス性向上が重要。

●交通（道路）

- ・ 他都市と比較して駅前空間が狭い。駅前の車両を減少すべき。
- ・ そのためには駅前エリアの周辺を含め広域的検討が必要。
- ・ バス停の分散・駅周辺の路上駐車が課題。
- ・ 大型車両が駅前を通る産業道路を利用することが渋滞の一因。

- 10月18日（月）の基調講演の開催前に委員の皆様で川口駅周辺のまち歩きを行いました。
- 川口駅周辺まちづくりビジョンの検討にあたって、重要なポイントとなる地域の課題や資源等について市の職員より説明しながら、現地を確認しました。



●坂村健常任相談役

主な講演内容

- 都市の課題を個別に解決するのではなく、共通のプラットフォームによって一挙に解決しようという「PaaS※」の考え方が世界的な主流となってきた。
- ※ 「Platform as a Service」の略。日本では「都市OS」とも言う。
- 例えばこれを自治体で活用すると、防災や福祉、各種申請等のサービスを相互に連携させることが可能になる。
- 「PaaS」には都市データの流通が重要であるが、そのために行政がやるべきことは、民間が守るべきルールや制度を定め、データ公開を行い、民間が安心してチャレンジできる制度基盤を整えることである。



主な質疑応答

- プラットフォームは市独自で作っても問題ないか。（聴講者）
➡ 将来的に国や県、他自治体等のプラットフォームと連携させれば良いため、問題ない。また、非常時の迅速な対応のためには、平常時におけるプラットフォームの整備が重要であることがコロナ禍で再認識された。（坂村氏）

●隈研吾常任相談役

主な講演内容

- これからの都市づくりを考える上で、以下4つの要素が重要と考える。

①情報

ハードと情報とを結びつけることが必要。

②環境

現代の環境問題に対応した制度や建築物のつくり方への転換が必要。

③交通

自動車中心の時代の交通体系から変わっていない。自動運転をはじめ様々な変化が進む中で、交通システムの再考が必要。

④ものづくり

都市の個性を育てるためにはものづくりの観点が重要。川口には植木・鋳物産業があるが、例えばこれらの活用が考えられる。



主な質疑応答

- まちづくりには様々な視点があるが、隈常任相談役が携わっているプロジェクトでは、こうした視点をどのように組み合わせて最終的なかたちを導き出しているのか。
（聴講者）

➡ 「直接人から話を聞く」ことの情報量は非常に大きい。多くの人が集まる生きた建築にするにはその作業が必要である。（隈氏）

● 聴講者の主な意見

- 坂村常任相談役から紹介のあった「都市OS」を用いて、隈常任相談役が挙げていた4つの要素を繋げられると優れたまちができると思った。（聴講者）
- お二方の基調講演で、まさに今後の川口市の方向性を語っていただいたと思う。ものづくりをまちの中に組み込んでいき、人々を呼び込むまちとすることが重要だと思った。（聴講者）

